

# 会計学の重要性訴える

## 盛大に記念式典

会計教育100周年・会計学科50周年記念式典が11月3日、生田キャンパスで盛大に開催された。佐々木重人学長はじめ教職員、学生、卒業生ら関係者約170人が出席。記念講演とシンポジウム、祝賀会が行われ、講師は会計学を学ぶ意義、重要性を訴えた。

式典は生田三商学部教授の司会で進められた。渡辺達朗商学部長は「商学部は2020年に神田キャンパスに移転するが、本日、会計というつながりや人脈に触れ、心強く感じている。今後も社会に役立つ人材を育成し世に送り出していきたい」と力強くあいさつした。



記念講演は安藤英義大学院商学研究科教授。「日本における会計教育―歴史の節目と今日の課題―」と題して、英米系の簿記会計が導入された明治から平成までの会計教育の変遷を資料から読み解きながら、現在の問題を明らかにした。また講演後、学生たちに次のメッセージを寄せた。

「会計、簿記の勉強は重要」と話した安藤教授



活躍する卒業生によるシンポジウム

「が発展してもまだまだ可能性があり、今後ますます発展していける仕事である。若い人材は必要不可欠だと呼びかけた。千葉氏は「学生時代の勉強や研究は非常に重要なエッセンスだ。また、異なる考え方の人たちが失敗や誤りを恐れずに数多く議論することを大事にしてほしい。失敗はこれからの成功の近道になる」と訴えた。

また久世氏は「アパレル販売の世界は華やかに見えるが現実には数字との闘い。大学時代に学んだことが仕事をする上で生きている。仕掛けを作る面白さを感じている」と充実感を語った。



### 会計学研究所講演会

専修大会計学研究科(伊藤和憲所長)の会計学講演会が10月16日、生田キャンパスで開催された。同研究所では会計の第一人者を講師に招き学生向けの公開講演会を年2回実施。今年度は特別に、本学の会計教育100周年・会計学科50周年の記念事業と共催した。

2回目となる今回は、統合報告のスペシャリストである齋尾浩一朗氏(有限責任あずさ監査法人アカウンティングアドバイザリーサービス事業部・KPMGジャパン統合報告COE/パートナー)が、「統合報告書を

「経済に会計は不可欠であり、会計に簿記は不可欠です。簿記を知らないければ、会計さらには経済がブラックボックスになって大変危険です。将

「統合報告は、企業の財務情報と非財務情報から構成される報告書。現代の企業にとって、統合報告書がいかにも必要であるのかを、実際の企業の統合報告書を示しながら具体的な説明がなされた。

「経営者が自分の言葉で企業の価値創造のストーリーを語る」ことが大切である」と強調した。

これからの企業を担う学生たちにとって大変良い機会となった。(国田清志商学部教授)



祝賀会は、10号館のテラスで開かれた。記念講演やシンポジウムを聴講した佐々木学長は「専修大学の会計教育の強みを感じることができた。今後は『計理専修』の伝統とともに新たな一歩を踏み出すことを目指し、専修大学の会計教育を社会貢献につなげていきたい」と語った。

### ◆祝賀会◆

祝賀会は、10号館のテラスで開かれた。記念講演やシンポジウムを聴講した佐々木学長は「専修大学の会計教育の強みを感じることができた。今後は『計理専修』の伝統とともに新たな一歩を踏み出すことを目指し、専修大学の会計教育を社会貢献につなげていきたい」と語った。

また、専修大会計学会の吉田伸江会長(昭54院商修)は「社会に出ていく卒業生が率先してプロとしての力を発揮し、専修大学の会計教育を社会貢献につなげていきたい」と語った。

川村晃正名誉教授の発声で乾杯し、出席者は和やかに歓談。国田清志商学部教授の音頭で万歳三唱をして締めくくった。

### 「さるかに合戦」を法学視点で考える

講演会

だれもが知っている昔話。時代とともにストーリーが変化する理由、現在の法体系から見た時々の問題点を指摘した。

講師は坂詰智美法学部准教授(日本法制史)。「一昨年の「かちかち山」に次ぐ第2弾で、今回は「さるかに合戦」を取り上げる、という二つのストーリーについて坂詰准教授は「復讐が社会的に許されていた時代と許されなくなった時代で、ストーリーは変化してきた」と分析する。そうした時代背景をベースに、法学的視点から①「さるかの復讐は許されるのか②仲間

が復讐に加担した行為をどう捉えるか」といった3点から問題を提起した。

「芥川龍之介がその後の展開を小説で描いているが、それだけ多くの問題を含んだ昔話だと思ふ。かにかの罪の重さを皆さんも考えてほしい」と参加した学生に呼びかけた。

資料を見せながら話す坂詰准教授

外国語のススメ  
外国語教育研究室



川上 洋平 法学部准教授

外国語は、私にとって、日本語の読み書きを習得する以前からの憧れの的であった。しかし、そもそも自分は何のために外国語の学習を欲したのかと考えると、実際のところそこには何らの明確な目的もなかった。思い返してみれば、どこへなりともこの世界の外へ

19世紀フランスの詩人ボードレールの作品に、Any Where out of the worldと題された散文詩がある。この生を「一つの病院」に喩える語り手は、病からの治癒のため、みずからの魂に向けて引っ越しの提案をする。

光に満ちて暖かなリスボンはどうか。ロッテルダムには好きなものがあるだろう。パタヴィアという手もあ

ギユスターヴ・クールベ「シャルルボードレールの肖像」

しかしどの案に対しても黙し続ける魂に対して、生から遠く離れた極地、「死にも似た国々」への転居を呼びかける。すると魂はこう叫ぶのである。「どこへでも! どこへでも! この世界の外ならば!」何の目的もなく、ただこの世界からの解放を謳う詩のタイトルが、作者にとっての外国語たる英語による表記であることは象徴的である。この世界の外は、現実の外国ではなく、まして死でもなく、外国語であったということであろうか。どこでもいい、ここでないどこかへ――。そんな何やら無責任で投げやりな動機から、外国語にすぎり、そしてわずかであれ救いを得られること。それも外国語を学ぶことの、決して低く見られるべきではない役割であろうと思う。(担当は西洋政治思想史)

※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。

公開講座情報

人文科学研究所 第1回公開講演会 イタリヤ音楽紀行「春の祭りカーニバルの音楽と踊り」

▽日時 11月20日(火) 14時~15時30分

▽場所 専修大学サテライトキャンパス

▽発表者 金光真理子横浜国立大学教授

第2回公開講演会 災害

社会知性開発研究センター / ソーシャル・ウェルビーイング研究センター シンポジウム アジアにおける「豊かさ」の新しい形

▽日時 11月25日(日) 10~18時

▽場所 生田キャンパス 9号館図書館本館研修室

※入場無料

▽内容 基調講演: 大竹文雄 大阪大学教授・細田

911・1274

図書館企画展「メキシコ絵文書に見る古代文明の歴史」

15~16世紀のアステカ王国に関する絵文書の複製などを展示。

▽会期 11月26日(月) 12月14日(金)

▽場所 生田キャンパス 9号館図書館本館研修室

※入場無料

▽内容 基調講演: 大竹文雄 大阪大学教授・細田

911・1274